

第7次瑞浪市総合計画基本構想（骨子案）に対する意見と回答

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
1	1	基本構想の構成として、理解しやすい構成になっている。	-	-	総計審
2	1	基本的な構成は資料4-2「【第6次総合計画→第7次総合計画】基本構想の構成の比較」で示された案で良いと判断する。なお、第3章における5つの基本方針の並び順は、今後の議論を踏まえて重要度が高い順番に並べるほうが良いと思う。	5つの基本方針の並び順は、これまでのアンケートやワークショップ、市長と語る会など、その中でいただいた意見や分析結果、これまでの行政の課題等を踏まえて設定したものです。今後の議論を踏まえながら最終案とします。また、記載順が必ずしも優先順位ではないこともご理解ください。	-	総計審
3	4	将来都市像のリード文章について、文言が遠回しに思えるので、もう少し核心に迫る文言にした方が良いのでは。前回の審議会会長の言葉を借りると、「近隣の市町村とともに手を取り合っていく」「市民の努力が問われる」など。また、人口の目標・表記の仕方が今回は大きな議論となると思う。ここに「存続」の文字なども入れることを考えてはどうか。ほわんとした聞こえの良い目標ではなく、もっと明確なビジョンを掲げてほしい。	リード文については、将来都市像を1つに絞る中で全面的に見直します。リード文には、将来都市像を決定した背景、この将来都市像を合言葉に、まちづくりを進めることを、簡潔に明記します。	有	総計審
4	4~9	「目指すビジョン」について、掲げられた側面「将来都市像」「人口ビジョン」のほか、「土地利用構想」の項目があるが「土地利用構想」は唐突感があるように思う。ここに土地利用構想をもってきた理由にも触れた方が良いのでは。考え方としては、目指すビジョン（大目標）があって、それに紐づいて、人口目標と土地利用目標があるというイメージで間違っていないか。3つが並列になると違和感がある。もしくは、この3つの側面から描く理由をそれぞれ補足文や文言で指し示すのが良いのではないか。	「目指すビジョン」とは、「将来都市像」というキャッチコピー的な文言のみならず、人口フレームという数値的側面、土地利用構想という空間的側面の3つから描くというイメージです。「将来都市像」実現のために、まずは人口ビジョンに紐づく「人口フレーム」、そして面的に市域を捉えてその方向性を示す「土地利用構想」の側面によって描くことが必要と考えます。リード文を1文加えることで、数値的、空間的側面からも描くことを明確にします。また、「土地利用構想」を「土地利用の方向性」というタイトルに変更します。	有	総計審
5	4~9	第2章目指すビジョンの項目部分は3つが並列なものか。全体を通して広く基本構想が書かれている。その中でも、独自の【重点施策】など市の個性が見えると良いと感じた。また、各地域の個性と発展など、地域の特色も見えると良いと思う。（できれば、目指すビジョンのあたりに各地域の個性やビジョンがあるといい。）	「目指すビジョン」とは、「将来都市像」というキャッチコピー的な文言のみならず、人口フレームという数値的側面、土地利用構想という空間的側面の3つから描くというイメージです。基本構想では、10年間不変のものという位置付けから、具体的な記載はせず、市の方向性を示す程度にとどめます。重点施策として瑞浪駅周辺再開発事業や道の駅整備事業が挙げられますが、基本計画において重点的に取り上げることにします。各地域の個性と発展についても同様に基本計画にて地域ごとにピックアップしていきます。	-	総計審
6	4~5	将来の未来像を基にフレーズは決定すべきと考えるが、具体的なビジョンが見えない状況では、決定は難しいと判断される。医療・介護・施設の有効利用、もう一度検討をお願いします。	7次総期間中には、瑞浪駅周辺再開発事業や道の駅整備事業など大規模な基盤整備が予定されています。7次総では、こうした施設を一つの拠点とし、市内外への情報発信や定住人口、交流人口等の拡大を図り、瑞浪市の魅力を高めていきたいと考えます。具体的には基本計画に位置付けることで考えております。また、若者世代の活躍を特に重要視しています。まちづくりの基本方針において「人・未来を育むまちづくり」をトップに位置付けていることもこうした背景があり、これらの視点を踏まえて将来都市像を検討しています。何かに特化した将来都市像を明記すべきとの考え方もあろうかと思いますが、市の最上位計画として掲げる計画であることから、瑞浪市に関わる全ての人に関係し、かつプラスのイメージのフレーズを掲げたいとの想いです。	-	総計審

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
7	6	6次総の計画期間に大規模な企業誘致があり、社人研推計は上回ったものと認識する。しかし、この誘致は特殊要因であったと解釈するが、今回の34,000人（R15）という目標は、そのような分析を踏まえた上での目標か。高すぎる目標ではないか。実現可能な目標とした方がいいのではないか。	6次総の分析を踏まえた上での目標であり、高い目標であることは認識しています。しかし、市として総合計画という最上位計画を策定する以上、ただ流れに任せるのではなく、一定の推進力となるよう目標設定したいと考えます。国・県の示す人口ビジョンは合計特殊出生率を2.07まで引き上げる目標を掲げて目標を示しています。それを踏まえ、さらに7次総期間中の施策効果を見据えて34,000人と設定したいと考えます。	-	議会特別委員会
8	6	人口ビジョンにおける目標人口は保守的な数値にした方が実行力のある各種施策につながるのではないかと考える。	No.7に同じです。	-	総計審
9	6	人口フレームについて、何もしないとこれだけ人口が減るが施策をうつと減少が緩やかになる、という表現は、かなり後ろ向きな目標に思える。市民の方が目を通して、「これでは消滅してしまうのではないか？」という不安感を与えると思う。人口フレームを目標にするのは経済が成長する時代には有効であったが、いまはどうか。人口が減ってもこういう内容で取り組むので市として存続できる、という「市として存続できる」部分の定義づけが必要なのではないか。実際28,000人で人口減少に歯止めをかけることができた場合、20,000人と比べてどのような効果がでていくといえるのか？もしくは2060年以降、統合という可能性もでてきた場合、統合の中で、私たちが守らなければならない暮らし（生活）、文化、アイデンティティとは？を市民の方とともに見つけていくことが大事なのではないかと思う。そういった部分に触れずに、数字だけを掲げた場合、もやもとした不安だけが残ってしまうような気がする。	人口フレームのグラフについては、瑞浪市独自推計は表記せず、また、計画期間であるR6～R15の人口推計のみの表記に見直します。市として存続できるという定義づけについては、「人口が減少していく中でも、市の活力を維持・向上させるべく各種施策に取り組み・・・」という文言にとどめ、人口規模に見合った施策の方向性や内容を基本計画や実施計画で示していくことで、実現することとなります。人口減少に対する施策は、基本計画にて示す「総合戦略」にて具体的に位置付けます。	有	総計審
10	8～9	各種ゾーンという言葉を用いて示しているが、果たしてこのように位置付ける必要はあるのか。ここに示すことによって、例えば、集落・農業ゾーンと位置付けられた地域では、それ以外の事を推進しないという捉えられ方をされてしまうのではないか。	あくまでこの構想は、大まかな市の方向性を示すものであり、例えば、集落・農業ゾーン内で商業施設が建設されるようなこともありえます。それぞれの分野において個々の計画は存在するので、その中で実施していくものと解釈します。また、自治会・まちづくり推進組織ワークショップを踏まえ、各地域で「地域計画」の策定に向けて取り組みを始めています。こうした地域計画に地域の取組は記載され、進められていくこともありえます。	-	議会特別委員会
11	8～9	基本構想に位置付ける土地利用構想と、地域計画の策定期間は異なるが整合性はとれるのか。	地域計画は、来年度中（R5）の策定を目指します。基本構想は、令和5年9月議会を想定しているため基本構想が先立ちますが、地域計画は自治会・まちづくり推進組織ワークショップを踏まえるものであるため、方向性を踏まえた上で策定されます。	-	議会特別委員会
12	8～9	土地利用構想というタイトルにもかかわらず、現状が記載されているだけのように思う。先の事業を見据えてこのようにしていくという構想ではないのか。ソフト面での記載もある。土地利用の現状というタイトルならば分かるが、土地利用構想とは言い難いのではないか。	基本構想は、市の方向性を示したものです。駅周辺再開発、道の駅、リニア中央新幹線等、既に進行中の事業については見据える形で土地利用構想にも反映していきますが、計画のないものは載せることができません。構想そのものが6次総、7次総の10年間でガラッと変わることはないため、踏襲する形をベースにしていきたいと考えます。 「土地利用構想」というタイトルについては、No.4のとおりです。	-	議会特別委員会
13	8～9	駅周辺再開発、道の駅など大きな開発計画があるにもかかわらず、第6次総合計画と変更があまりにも少ないので、違和感がある。あえて言うなら「3. 土地利用構想」は不要ではないか。基本方針の1行と最後の行だけどこかに書いておけばよいかと思う。第6次総合計画のものとほとんど同じなら、記載することのデメリットのほうが多い。	「将来都市像」実現のために、まずは人口ビジョンに紐づく「人口フレーム」、そして面的に市域を捉えてその方向性を示す「土地利用構想」の側面によって描くことが必要と考えます。土地利用の方向性は大幅には変わりませんが、駅周辺再開発、道の駅、リニア中央新幹線等、計画期間中の大規模な整備については、それらを踏まえた土地利用構想とします。 「土地利用構想」というタイトルについては、No.4のとおりです。	-	庁議

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
14	8～9	<p>柱立ての構成の変更があり、6次総と比べて、土地利用構想の注目度が上がっているが、言葉としてのメッセージが弱いと考える。</p> <p>1. 拠点、軸として地域の具体的な名称を上げており、土地利用というよりも地域の魅力を発信している</p> <p>2. 「(2)土地利用の方向」として6項目挙げているが ④集落・農業ゾーン ⑤自然環境保全ゾーン、⑥観光・スポーツ・レクリエーションゾーンでは、重複または隣り合わせになるエリアが発生し明確な土地利用を理解しづらい</p> <p>3. ゾーニングは各地区のまちづくり組織が自エリアと近隣エリアに境界を持たず協力体制が取れ、有効な場合がある。</p> <p>以上、3つの理由により項目の名称変更を提案したい。「第2章 目指すビジョン」における「3.土地利用構想」を「3.地域活性構想」としてはどうか。</p>	<p>拠点として、地域の具体的な名称を挙げていますが、この章では、示した土地利用を進める又は維持する上での地域の拠点として明記しています。具体的な地域活性の方策までを示すものではないため、あくまで「土地利用」の方向性を示したものです。</p> <p>6つのゾーンに分けて示していますが、いくつかのゾーンが重複するなど、明確な区分けは難しい部分もあります。土地利用構想においては、あくまで大まかな方向性を示すものであり、具体的には総合計画に紐づく個別の計画において示すこととなります。</p>	-	総計審
15	8～9	<p>国土強靱化計画、立地適正化計画や市街化調整区域など、様々な計画・視点がある中で、どのように考えるか。</p>	<p>整合性は必要ですが、基本構想では大まかな方向性のみであるため、細かい記載はしません。</p>	-	議会特別委員会
16	8～9	<p>周辺地域において、関係人口・交流人口の拡大に努めるとの記載がある。具体的にどう進めるか。</p>	<p>各地区の魅力ある資源を活用していきます。現在、観光協会が主体となって活用方法を検討しています。市も一緒になって進めていきます。具体的には、基本計画に位置付けます。</p>	-	議会特別委員会
17	8～9	<p>説明文で将来都市像の実現に向けて、土地利用を各ゾーンに区分し・・・とある。将来都市像がまだ検討中であるのにも関わらずこのような記載としているのはおかしいのではないか。</p>	<p>将来都市像は、複数案提示している段階です。ただ、どの都市像になろうともその方向性、ゾーンの区分けにまで影響を及ぼすものではないため、記載しています。</p>	-	議会特別委員会
18	8～9	<p>観光施策を進めていくにあたり、道の駅と竜吟峡をそれぞれのカテゴリーで位置付けたい。また、親水空間だけでなく、森林空間も含めて「環境軸」のようなカテゴリーで自然空間を保持していく方向性を規定したい。(ちなみに、土地利用構想の部分は、6次総と同様に図示するなどビジュアル化するのであれば、「環境軸」を規定する場合、森林部分の軸の表示について、確認させてほしい)</p> <p>3. 土地利用構想</p> <p>(3) 拠点 (エリア)</p> <p>①地域拠点の1つ目のポツでは、駅周辺再開発に関する記述を追記すること。内容は建設部に確認すること。</p> <p>②交流拠点に「道の駅」についての記述を追加すること。内容は、建設部に確認すること。</p> <p>③交流拠点の2つ目のポツから「日吉町天神窯周辺」を削除すること</p> <p>(4) 軸</p> <p>④交流軸2つ目の「ポツ新丸山ダムの事業化…」については、具体的な取り組みを経済部では想定していない</p> <p>⑤「親水空間活用軸」を「環境軸」に代えること</p> <p>環境軸の説明は元の表現を活かすと「豊かな自然の中での快適な生活や、うるおいのある都市づくりのために、森林などの緑地や、土岐川及び小里川、佐々良木川などにおける水辺地を住民の憩いの場として活用する環境軸として位置付けます。」ぐらいでどうか。</p>	<p>道の駅については、交流拠点として位置付けます。(竜吟峡については、既に交流拠点として明記。)</p> <p>「親水空間活用軸」を「環境軸」に、という提案をいただきましたが、軸という概念について、明記の必要性を改めて検討させていただき、軸(広域軸、地域連携軸、交流軸、親水空間活用軸)そのものを記載しないこととします。なお、6次総と同様、瑞浪市全図を用いて図に示します。地域拠点としてJR瑞浪駅周辺を明記していましたが、交流拠点として位置付けます。交流拠点の「日吉町天神窯周辺」については、削除します。</p>	有	庁議

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
19	8~9	<p>a. コンパクトシティ・プラス・ネットワークの説明はどこにあるか。</p> <p>b. 土地利用の方向について、⑤の「飛騨木曾川国定公園」の表現はあまり馴染みがないように思う。また、⑥観光とスポーツ・レクリエーションを一括りにするのはどうか。あまり観光に力を入れてないように感じる。</p> <p>c. 拠点について、地域拠点の定義とはなにか。市役所や文化センターなどはどうなのか。また、釜戸駅周辺の追加を希望する。さらに、交流拠点に、化石掘りなどの土岐川沿いエリアの追加を希望する。加えて、産業拠点に、窯業技術研究所の追加を希望する。</p> <p>d. 軸の項目について、軸の必要性について触れてほしい（一言程度で問題ないかと思う）。また、広域軸だけ軸の目的がはっきりしない。広域連携軸？など項目のネーミングを検討した方が良いのではないか。</p>	<p>コンパクトシティ・プラス・ネットワークについては、用語解説を明記します。</p> <p>「飛騨木曾川国定公園」については、公園内に松野湖など、水源や森林の機能を活かした代表的な地域のため記載を残し、加えて屏風山（黒の田湿地）も併記します。観光・スポーツ・レクリエーションゾーンについては、特に本市においてはゴルフ場など、密接不可分であり観光とスポーツ（又はレクリエーション）と分断することはできないことから、一括りに示しています。</p> <p>地域拠点とは、地域のまちづくりを進める上での中心となる施設等を指します。市役所や総合文化センターも拠点の1つですので、追加します。併せて市民体育館も位置付けます。</p> <p>交流拠点として釜戸駅周辺を追加します。土岐川沿いの化石採掘場は、交流拠点になりうると考えますが、既に市民公園を位置付けており、その中に化石博物館を含んでいるため、追加はしないものとします。窯業技術研究所についても拠点ではありますが、産業振興センターを位置付けることにとどめたいと考えます。</p> <p>この他にも、地域拠点となりうる施設はあるかと思いますが、代表的なものとして示しているものです。</p> <p>軸については、No.17のとおり記載しないこととします。</p>	有	総計審
20	10	第3章について「子どもは地域の宝」の文言はとても良いと思う。	-	-	総計審
21	10~11	6次総から比べて施策体系の見直しがされるが、担当課が現状の組織では複数に跨る項目のものも想定される。組織の見直しも併せて行うか。	組織の見直しも併せて行う予定です。令和6年4月から新組織で推進できるよう準備します。	-	議会特別委員会
22	10~11	6次総の施策体系と比較して、理解しやすい体系になっている。	-	-	総計審
23	10~11	基本コンセプトの充実を図り、総合計画へ確立を願う。	-	-	総計審
24	10~11	7次第3章の1~5項目を成す為に公共交通の充実が必要。高齢者の社会参加が特に必要であり、どのように動かすかは足の問題である。実施計画の盛り込みが欠かせない。	公共交通については、「5.持続可能なまちづくり」に位置付け、説明において利便性の高い公共交通の構築を進める旨を記載しています。具体的な公共交通の方向性は、基本計画において示します。	-	総計審
25	10~11	「持続可能なまちづくり」の説明からは、病院統合やごみ処理、消防通信指令などの広域化の推進が読み取れないが、表記しないか。	積極的に行政改革に取り組むと説明しており、「行政改革」には、広域化の推進やデジタルの活用などによる業務効率化、情報発信などの要素が含まれます。 「II 計画の策定にあたって 第3章 現状・課題と今後の方向性 7. 時代に即した行財政運営」において広域行政の重要性について追記します。 具体的な取組は、基本計画に位置付けます。	有	議会特別委員会
26	10~11	総合計画は、理想の街を目指すための柱となる道筋を示すものであるため、資料4-1「基本構想（骨子案）」の第3章で示された「まちづくりの基本方針」に沿う形で良いと判断する。具体的な施策は基本計画や実施計画に落とし込まれることとなるためこの場で言及すべきではないと思うが、瑞浪市の利点の一つとして第2章「3.土地利用構想」で示されたように交通網が挙げられると思う。人口が多くない自治体はたいいてい山間部に位置し、交通のアクセスが良くない。しかし、特に瑞浪駅周辺は名古屋まで50分程度で行くことができ、中央自動車道や国道19号線と主要道路が存在する。したがって、交通アクセスに関しては比較的充実していると思う。この点を基本構想と関連づけることが望ましいと判断する。	「II 計画の策定にあたって 第1章 瑞浪市の姿 瑞浪市の概況」において、本市の交通インフラが恵まれている地域であることを明記しています。土地利用構想においても、リニア中央新幹線の開通を好機と捉え、こうした交通インフラの良い点を踏まえて計画しています。	-	総計審

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
27	14~16	ICTの活用などデジタル分野についての記載があるが、構想の中でそれを推進していくことがみえない。当然推進されることと思うが、推進する上で然るべき推進体制を整備する必要があるのではないか。	「II 計画の策定にあたって 第2章 社会潮流 2 情報通信技術（ICT）の普及と新たな展開」の中で触れておりますが、「第3章 本市の現状・課題と今後の方向性」においても、デジタル分野の推進について一言追記します。 推進体制については、組織の見直しも併せて行い、令和6年4月から新組織で推進できるよう準備します。	有	議会特別委員会
28	16	【庁議メンバーのみの資料】 世帯数の推移の「高齢者単身世帯」は「65歳以上の高齢者単身世帯」とするほうが、より親切で正確と思われる。	65歳以上の単身世帯（高齢者単身世帯）と表記します。	有	庁議
29	14~19	第2章の社会潮流と第3章の現状・課題と今後の方向性の対応を意識してSDGsについて表示してはどうか。 ・第2章の「5. 地球環境問題への取組」は「5. 持続可能な社会の実現」とし、記述内容はSDGsについて包括的に記載する。 ・第2章の「7. 持続可能な行財政運営」は、SDGsと表現を避けるため、「7. 質の向上を目指した行政運営」などとする。 ・第3章の「5. 環境・基盤整備の推進」は「5. SDGsの取組」とし、本市のSDGsの取組の方向性を記載する。 ・第3章の「7. 時代に即した行財政運営」の記述には、広域行政の取り組みの必要性を追記する。	「II 計画の策定にあたって 第2章 社会潮流」において、 「5. 地球環境問題への取組」は「5. 持続可能な社会の実現」とし、SDGsについて包括的に記載します。 「7. 持続可能な行財政運営」は、「7. 質の向上を目指した行政運営」とします。 「II 計画の策定にあたって 第3章 本市の現状・課題と今後の方向性」において、 「5. 環境・基盤整備の推進」は「5. SDGsの取組」とし、その方向性を記載します。 「7. 時代に即した行財政運営」にて広域行政の重要性について追記します。	有	庁議
30	全般	第7次総合計画は瑞浪市における10年後の理想像を示すものであるが、当然10年先の未来は誰も予測できない。2010年代と比較して2020年代の環境変化はより高速かつ不確実なものになると予測される。そのような状況において、基本方針はシンプルであるものの本質をついたもの示す必要がある。同時に、計画のローリング方式で示されていたが、実施計画を時勢に応じて柔軟に変えていくことも重要である。したがって、基本計画と実施計画の両輪を上手く回すことが理想であると判断する。	-	-	総計審
31	全般	まちづくり指標について記載されていないが、どのような考え方か。	指標については、近年の社会情勢の急激な変化に対応すべく、時流に応じて変化させることが想定されます。そのため、基本構想に位置付けることは避け、基本計画に位置付けることで、柔軟に対応していきます。7次総で包含する「総合戦略」と一体的に検討していきます。	-	議会特別委員会
32	全般	基本構想は瑞浪市人口ビジョンとまちづくり基本方針を第一に考える必要がある。人口水準の維持を保つこと、またまちづくりでは人づくりが最も大切に思う。 特に人口減少問題とまちづくりにおける人づくりという2点が、まちを活性化させる基になる。行政は、あらゆる情報発信を充実させる必要があると思う。	日本全体の人口が減少の一途をたどる中、一自治体で人口増加を実現するのは至難と考えます。示した人口フレームを目標として、ただ人口減少の流れに任せるのではなく、施策の展開により一定の施策効果等を見据え、減少を少しでも抑えた上で、人口規模に見合った自治体運営を行うことが現実的であると考えます。人口減少問題については、基本計画にて示す「総合戦略」において重点的に記載し、まちづくり（人づくり）については、「まちづくりの基本方針 2 魅力あふれるまちづくり 協働のまちづくり」に示し、基本計画において具体化していきます。情報発信については、「まちづくりの基本方針 2. 魅力あふれるまちづくり」に新たに「シティプロモーション」を位置付け、特に重要視すべきポイントの一つとして基本計画においてもその方針を示しながら、積極的に進めます。	-	総計審

No.	ページ	意見	回答	修正の有無	意見の出所
33	全般	<p>一つ一つの施策については、これからの問題と承知しているが、最近の報道の住みたい田舎ランキングという記事があり、中津川市や恵那市が成果を上げていることを知った。他都市の方策を研究参考にしても良いのではないかと。今後、具体的方策を作成していくにあたり、印刷物の作成・配布をどのように行うのか。例えば各地の岐阜県アンテナショップへの配布や、移住者・訪問者を獲得のためのセンターの動き、来訪者増加を狙いリモート・ワークでの空き家ホリデー利用、日吉町や陶町のカフェ・料亭の紹介等、瑞浪市ホームページにUPするだけでなくYouTubeやInstagram、瑞浪市の紹介TV番組放映等、頻繁にセンター側が情報発信し続ける。</p> <p>駅前開発計画においても、駅を軸としてドーナツ型都市、駅に近い地域は住宅及びカフェなどが一時的に集まる場所を作る。国道19号線沿線はスーパーマーケットや量販店、ファミリーレストランやファストフード店、そしてその外郭地域には生産企業の工場といったレイアウトでももちろん各地域には十分な駐車場を整備する。</p> <p>公共交通機関の便数増、今後免許証返納者が増加、高齢化への対策は確実に必須である。これらの例は転入者の増加を狙っているもので、まだ就業地問題や補助・通勤問題の改善等検討課題が山積しているが、今後は基本構想と施策体系の連携確認が重要と思う。</p>	<p>「まちづくりの基本方針 2. 魅力あふれるまちづくり」新たに「シティプロモーション」を位置付けます。情報発信については、特に重要視すべきポイントの一つとして基本計画にもその方針を位置付けながら、積極的に進めます。</p> <p>駅周辺再開発事業は、7次総計画期間でも中心となる事業で、その位置付けは重要です。整備された瑞浪駅周辺を軸に周辺への波及効果も期待し、「瑞浪駅周辺を核としたまちづくり」を展開します。公共交通、少子高齢化の問題についても必須であり、具体的施策の方向性を基本計画にて示します。その他、移住定住施策等も連携して取り組むことで、魅力あるまちづくりを進めます。</p>	-	総計審
34	全般	<p>女性が働きながら子育てしやすいまち＝企業減少・医療の問題が様々な環境の中で難しい問題と判断されます。今後の課題として行政として取り組みを期待する。</p>	<p>未来を担う若者世代の活躍を重要視しています。まちづくりの基本方針において「人・未来を育むまちづくり」をトップに位置付けていることもこうした背景があります。未来の担い手を確保する取組を進めます。</p>	-	総計審
35	全般	<p>各地域の意見を聞き取るタイミングと反映。</p> <p>各分野（人・未来を育むまちづくり、シティプロモーション、生涯活躍、産業、持続可能なまちづくり）の意見聴取の先は？分科会などが開けるといいかと思う。</p> <p>・決定前の素案をもってさまざまなジャンルの方とディスカッションに臨むことで、自分たちの意見が反映された総合計画だという自覚が市民に生まれると感じる。市民参画の第一歩と思う。</p>	<p>これまでに実施したアンケートやワークショップでの意見や提案、6次総の進捗状況評価を踏まえ、総合計画審議会や議会特別委員会での議論を経て素案が完成します。こうして完成された素案を、パブリックコメントにて市民等に示します。</p> <p>総合計画の策定の段階で分科会は予定しませんが、総合計画に紐づく各分野ごとの計画において、それぞれアンケート調査や、有識者・公募委員等から成る審議会等での意見聴取を行った上で具体化されることとなります。</p>	-	総計審